

ふらのコミュニティレポート

FURANO COMMUNITY REPORT



▲大正琴サークルの演奏が10年の節目に花を添えた ▶会話を楽しむ利用者

asamati fureaisaron

麻町ふれあいサロン

10年の節目を祝う ふれあいサロンの先駆け



6月20日、麻町児童センターで、麻町ふれあいサロンが開催され、関係者や地域の高齢者約100人が集まる中、10年を迎えた節目の年を祝いました。この日は、サロンの開催回数がちょうど120回ということもあり、能登市長をはじめ、多くの来賓もお祝いに駆けつけました。「今日はゴールではなく、まだ中間点。さらに来ていただけのようなサロンにしていき、目標に一步でも近づけていきたい」と山田明運営委員長が挨拶。この日は「美音の会」のメンバーによる大正琴の演奏も披露され、伴奏にあわせて参加者全員で歌を唄いました。

「麻町ふれあいサロンは、富良野のふれあいサロン開催地域の先駆けで、地域活動において、民生児童委員と会議を行った際に「地域の高齢者を集めて何かできないか」と、平成14年7月から始まりました。当時はスタッフ11人という中で、富良野地域で最初に立ちあがったこともあり、毎回サロン終了後に反省会をしながら「次回は何をしようか」とあれこれ試行錯誤しながらの日々。参加者も少人数でしたが、「このままでは目標が達成できない」と、地域の一人暮らしの高齢者をピックアップし、開催2回目には50人程度まで増えていきました。

9つの町内会から来る高齢者たちも初対面の方がほとんどで、他の町内に住んでいる方となかなか馴染めない面もありましたが、回数を重ねることに親しくなり、今では、「顔の見える関係を築く」という大きな目的の一つを達成しています。今後はさらに防災という観点から、高齢者だけではなく地域全体が顔の見える関係を築いていくことが求められていきます。

